

2023年度 IRフォーラム

変革する大学！

学修成果の可視化と教学マネジメントの実践

～IRデータを活用し、学科教育の改善や教職員の学生支援スキル向上に取り組んだ事例～



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto



株式会社リアセック
RIASEC, Inc.



2023年8月26日(土) 13:00～16:00

開催方法 オンライン配信 (Zoomウェビナー)

参加費 無料

対象 大学・短期大学等教職員

定員 1000名 ※申込先着順

プログラム ※講演内容詳細は裏面をご覧ください

開会挨拶

13:05～
14:05

基調講演

カリキュラムの改善に向けたIR

中井 俊樹 氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教授)

14:10～
15:00

事例発表①
京都芸術大学

『学科ポートフォリオ』による教育活動
可視化と教育活動点検の仕組み

～学科の多様性を尊重したデータに基づく教育活動の展開～
河田 学 氏 (芸術学部 学部長)
市川 亮祐 氏 (教学支援二課)

15:05～
15:55

事例発表②
駿河台大学

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の達成度
可視化と学生の成長支援に向けた取り組み

～全科目をキャリア教育と位置づけ、全学教職員で育む『駿大社会人基礎力』～
梅村 慶嗣 氏 (キャリアセンター 准教授 学長補佐)
雷 光一 氏 (キャリアセンター事務部 部長)

閉会挨拶

お申込み

下記URLまたはQRコードからアクセスのうえ専用フォームからお申込みください
<http://www.riasec.co.jp/seminar/works/>

お問合せ

株式会社リアセック

☎ 03-6823-6138 ☒ seminar@riasec.co.jp



令和4年、質保証システム部会の「新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について」の審議の中で、質保証システムは単に大学を評価するものではなく、大学の自主性・自律性に基づく自己改善を促進するためのものであり、大学は、そうした一連の営みを通して社会から理解と支持を得ることができ、また、必要な情報を社会に公表し社会との対話を進めることで、教育研究等の更なる充実が可能となる、と唱えられています。

このような状況を踏まえ、本フォーラムでは、基調講演で愛媛大学の中井 俊樹氏をお迎えし「社会に開かれた質保証」の重要性やIR組織に求められることについてご講演いただきます。また事例発表では、京都芸術大学と駿河台大学よりIRデータを活用した組織的な教学マネジメントの推進や、ディプロマ・ポリシー達成度可視化の事例を、ご紹介いただきます。
多くの高等教育機関の皆様へ、ぜひご参加賜りますようご案内申し上げます。

▼ プログラムのご案内 ▼

カリキュラムの改善に向けたIR

中井 俊樹 氏（愛媛大学 教育・学生支援機構 教授）



IRが提供する情報が十分に活用されないという声があります。カリキュラムの改善に向けてIRはどのような役割を果たすことができるのでしょうか。

本話題提供では、IRの役割と大学のカリキュラムの特徴を踏まえて、カリキュラムの改善に向けたIRのあり方を考える機会を提供します。

- (1) IRとその活用
IRとその意義／説明責任と改善
- (2) カリキュラムとその構成要素
大学のカリキュラムの特徴／カリキュラムの構成要素
- (3) カリキュラムの改善に向けたIR
情報と改善の関係／データから情報への変換／改善につながる情報提供

基調講演

『学科ポートフォリオ』による教育活動可視化と教育活動点検の仕組み ～学科の多様性を尊重したデータに基づく教育活動の展開～

京都芸術大学

- (1) 本学の特色および取り組みの変遷
① 本学の学部・学科編成および教学マネジメント体制
② 就職できる芸術大学を目指して
③ 中期計画(Vision 2026)および2024年新カリキュラム
- (2) 本学におけるIR組織、取り組みの変遷
① 学内におけるIRの位置づけ
② IR委員会の発足と入口/中身/出口に対する分析や学科へ浸透させるための工夫
- (3) 『学科ポートフォリオ』の活用事例
① 『学科ポートフォリオ』とは(入口/中身/出口の数値データの集約)
② 学科毎の活用事例(各種データを活用したクラス編成、入試設問の見直しなど)



河田 学 氏
芸術学部 学部長



市川 亮祐 氏
教学支援二課

事例発表

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の達成度可視化と学生の成長支援に向けた取り組み ～全科目をキャリア教育と位置づけ、全学教職員で育む『駿大社会人基礎力』～

駿河台大学

- (1) 『駿大社会人基礎力』育成機会の明確化
① 社会に出るまでに身につけるべき能力の定義
② 全学で取り組むキャリア教育
- (2) 『学修成果の可視化』と学生へのフィードバック
① 客観指標(PROG)データから見た学修成果と課題
② コンピテンシーに関わる駿大社会人基礎力と就職/PROGデータを利用した未就職者の特徴と対策案
- (3) 「駿大成長チャート」活用と学生支援スキル向上の取り組み
① 『学生支援ルーブリック』の開発と活用
② 全学研修(FD/SD)を通じた教職員の学生支援スキル向上支援



梅村 慶嗣 氏
キャリアセンター
准教授 学長補佐



雷 光一 氏
キャリアセンター
事務部 部長

基調講演・事例発表 進行 (モデレーター)

森 正美 氏 (京都文教大学 学長)

